

# よくわかるIPネットワーク

株式会社ジャパテル 代表取締役 佐々木宏至

前回「2015年は業界の大きな、転換点になるかも感じている。」と書いたが、ズバリそうだったようだ。

キヤノン社は、マイルストーンAS社買収に引き続き、アクシスコミュニケーションズAB社も傘下に入れた。余り知られていないが、パナソニック社もビデオインサイト社を買った。ビデオインサイト社は、米国テキサス州ヒューストンを拠点にした企業で、教育分野で強みがある。約125人の従業員を擁する企業規模だ。エグザック社のタイコ入りを含め、映像監視業界は再編真っ盛り。VMSの上位3社で残るのはジェネテック社のみとなった。弊社がジェネテック社と最初のコンタクトを取ったのが2000年だから、丸15年が経過した。

カメラ・メーカーはVMSを欲しがり、VMSメーカーは買われたがるのが本音。今回のキヤノン社は、ずばり時間とブランド&チャンネルをアクシス社から買った。アクシス社製品のソフトウェア(コア部分)以外には魅力はそれほどないだろう。デバイス技術はキヤノンが遥かに上を行っているからだ。

なぜこの様な動きが加速したのか？サムスン・テックウィン社やDVTel社そしてアビジロン社も根は一緒。相当前になるが、GEがセキュリティ部門をUTCに売却したのも、結局は収益性の頭打ちだ。近年は中国企業の台頭により、各社が収益性の圧迫に苦しんでいる。日本はどうかというと、構造が余りにも違い過ぎて比較対象にはならない。ワールドワイドで勝負に出ている

のは、パナソニックとソニーそしてキヤノンだけと言っても過言ではない。その意味でキヤノンの選択は誠に素晴らしいと私は考えている。

さて本題、今回のテーマである詳細なソリューションにフォーカスしていきたい。

国内監視カメラ市場で、真にソリューションを意識して展開している企業はそれほど多くはない。大多数はカメラとレコーダで完結している話だ。ソリューション自体もカメラ・メーカー主体がほとんど。ソリューションとは言いながら、カメラの機能差別が主体だったりしている。本来はソリューションのために機能を取捨選択するのだが、これがひっくり返ると本末転倒で、使われないソリューションになり果てる。

使われないソリューションが多いのがインフラ系に集中しているのはなぜか。我々日本人は外部から攻撃されるという前提を忘れている。例えば浄水場だが、簡単に侵入できて簡単に毒を投入できる。300万円の巡回カメラを数台入れて録画して完了。しかし、巡回カメラは確認追尾用であり常時監視には向かない。低コスト固定カメラで死角なしを追求しないのはなぜ。秒速180度以上の大型巡回カメラを仕様で盛り込むと選択はほとんど限られる。

固定カメラで死角なし、固定カメラはできるだけ低位置に設置することで、顔が圧倒的に見やすくなる。それを鉄塔に設置し見下ろして何になる。鉄塔

には高性能なドームカメラ数台で十分。後は外部侵入者検知用に、フェンス・センサに徹底注力する。

最近の固定カメラはオンボードで画像解析機能があるのでフェンス・センサと組み合わせて利用する。誤報を減らすには仕様書では無理で、運用を通して細かい調整が必要だが、それでも誤報はある。それを確実に瞬時判断するためにはプリポスト・アラームしかない。こんなシンプルで重大なことがまとものできていない。狙われたらひとたまりもない。プリアラームはアラーム前の映像、ホスト・アラームはライブ映像のこと。

追尾するという考え。不審者がいた、どこに行った？パブリック・セキュリティでは現実には難しいが、それでも追尾できる仕組みは大変重要だ。追尾にはライブ自動追尾、ライブ手動追尾、録画手動追尾と3種類ある。

## ■ライブ自動追尾

この人は怪しいと追尾するのでなく、人や車の動きに反応して追尾動作を行うことを言う。良く受ける質問は「二人いたらどちらを追尾するのか?」。私は「あなたはどちらを選びますか?」と尋ねる。つまり、一般的なPTZカメラは人が操作しないと、ただの固定カメラと一緒に。であれば自動追尾は悪くない機能であり選択だと私は考える。パトロール機能で自動巡回させる方法もあるが、動きが読まれるし、対向でクロスした人物は瞬間しか映らない。



### ■ライブ手動追尾

一般的にはPTZカメラを操作することを言う。しかし、ここでは全く違う。カメラ間追尾を意味する。画像解析ではタグ&トラックと言われているが、実用レベルではない。「手動で追尾する。それって画面を見ていればいいじゃないか」と考えるあなたは間違っていないが、それは限られた条件下だ。つまり少数のカメラでの話だ。数十台、数百台のレベルでは成立しない。

スケルトンカラーのマスク・エリアをクリックするだけで、それに関連したカメラに切り替わるようになっている。私達はこれをビジュアル・トラッキングと言っている。ロジカルに最小限の死角で構成された、多数のカメラ環境下で徹底して確実なトラッキング

を提供できる。

### ■録画手動追尾

セキュリティ運用で最も悩ましいことのひとつに、事後検証がある。数台レベルでも対象を見つけ出すのは大変で、顔などが映っていないかを検証するために膨大な時間を費やす。数百台規模の場合では想像を超えた苦難だ。


このような場合、ビジュアル・トラッキングが録画映像にも使えたら、労力も激減し決定的瞬間をとらえる大きな手助けとなる。

### ■マップ

マップも映像管理では重要な機能だ。しかし、私が知る限り国内のVMSもNVR系のCMSに付随するマップも単

なるカメラ選択ツール程度だ。インタラクティブ・マップは、全てのエンティティ(カメラ/IO/アラーム/ドア/センサなど全ての要素)を動的に管理できるマップだ。PTZカメラを操作して見てはいるが、一体どこのどの区域を見ているのかわからない。インタラクティブ・マップではカメラが見ている方向、視野角(FOV)も動的に変化する。

今回は、このインタラクティブ・マップと、弊社が開発中のtAlarmをご紹介します。tAlarmはアラームと図面とアラーム元の機器のプロパティを統合したパッケージである。現在、ビル管理システム(PSIM)との連携を模索中だ。2015年はもう一度、ソリューションとは何かをテーマに、VMSの位置づけと重要性を再確認していただけたらと思う。次回は医療分野向けのソリューション、院内セキュリティと術野、術場メディア統合ソリューションのお話をさせていただきます。

この号が出る頃はセキュリティショー真っ盛り、弊社ブースにて比類ない展示をしています。今まで諦めていたような高度なソリューションをご覧になり、是非お声掛けください。ブースNo.SS3210です。 



株式会社ジャバテル

[www.javatel.co.jp](http://www.javatel.co.jp)

専門サイト [nvr.jp](http://nvr.jp) [ipcam.tv](http://ipcam.tv)

**Javatel**  
Video Intelligence

本社 〒530-0041 大阪市北区天神橋 2-北 1-21 八千代ビル東館 3F  
TEL 06-6354-0100 FAX 06-6136-1155  
支店 〒130-0011 東京都墨田区石原 1-41-4 TKビル 3F  
TEL 03-6658-8726 FAX 03-5637-7834